

介護DX戦略

介護×IoT技術で生産性向上の取り組み

1. はじめに

「介護DX」と聞くと、難しく感じるかもしれません。しかし、その本質は「デジタル技術を使って、介護の仕事やサービスをより良く変えていくこと」です。そしてこれまでインターネットに繋がっていなかったベッドや車いすといった「モノ」をインターネットに接続し、様々な情報をやり取りする技術も存在します。

これらの技術を活用することで、これまで介護スタッフが多くの時間を費やしていた記録作業や見守り業務などを効率化し、より質の高いケアの提供や、スタッフの負担軽減を目指すことができます。今回は介護の現場で進むテクノロジー活用について、その可能性と未来について触れます。

2. 介護現場を支える技術

・見守りセンサーで、安心・安全な夜間ケア

ベッドに設置されたセンサーが、利用者の睡眠状態や心拍数、呼吸数などをリアルタイムで把握します。これにより、夜間の定期的な巡回業務の負担が軽減されるだけでなく、利用者の異変を早期に察知し、迅速な対応が可能になります。実際に、見守りカメラの導入によって転倒事故が減少したという報告もあります。

・介護ロボットが、身体的な負担を軽減

利用者をベッドから車いすへ移乗させる際の介助をサポートするロボットや、入浴支援ロボットなどが開発・導入されています。これらは、介護スタッフの腰などにかかる身体的な負担を大幅に減らし、腰痛などのリスクを低減します。

・介護ソフトやアプリで、情報共有をスムーズにする

これまで紙媒体で行われていたケアプランの作成や介護記録を、タブレット端末やスマートフォンで入力・共有できるシステムが普及しています。これにより、記録作業が効率化され、スタッフ間で利用者の最新情報をリアルタイムに共有できるようになり、より質の高いケアにつながります。

3.テクノロジー導入のメリット・課題と国の支援

介護の質の向上：業務効率化によって生まれた時間を、利用者一人ひとりと向き合う時間に充てることができます。

業務負担の軽減：記録作業の自動化や介護ロボットの活用により、スタッフの心身の負担が軽減されます。

人手不足の解消：業務効率化は、限られた人員でも質の高いサービスを提供することを可能にします。

一方で、導入には課題も存在します。導入コストや、IT機器の操作に不慣れな職員への教育、そして個人情報の取り扱いといった点が挙げられます。

こうした課題に対し、国も積極的に支援策を打ち出しています。厚生労働省などが実施する「ICT導入支援事業」や「介護ロボット導入支援事業」といった補助金制度を活用することで、導入コストの負担を軽減することが可能です。

4.まとめ

介護分野におけるDXとIoTの活用は、まだ始まったばかりですが、その可能性は無限大です。重要なのは、テクノロジーはあくまでも介護の質を高めるための「ツール」であるということです。

最先端の技術と、これまで培われてきた人の手による温かいケアが融合することで、介護を受ける人も、提供する人も、双方が笑顔になれる新しい介護の形が実現する日もそう遠くはないでしょう。本事例の共有が、地域の病院、介護提供事業者様にもお役立ていただき、よりよい医療介護環境づくりに貢献できれば幸いです。

我々は、医療現場全体のDX推進を通して、患者、病院、医療従事者すべてに対してプラスに働くよう、今後も取り組みを継続します。

*内容について、さらに深く知りたい方は、
奈良県立医科大学 戦略的医療情報連携推進講座 までお問い合わせください。

Mail : spmic2024nmu@naramed-u.ac.jp



Dr.タマモンの 今月のひとこと

年度末が近づくと、介護現場にも落ち葉のように積み重なる書類が…。美しい紅葉は見たいけど、介護スタッフは紙の山と格闘中。こんな時こそ介護DXの出番。ケア記録をデジタル化すれば、書類の山も一気にスッキリ！さらにAI見守りシステムがあれば、利用者さんの小さな変化にも気づけます。利用者も介護従事者も、紅葉のように色づいた笑顔に。介護DXが、介護の世界にも豊かな実りを届けます。

